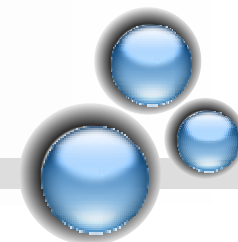


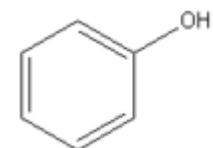
# 2007年3月期経営状況説明会



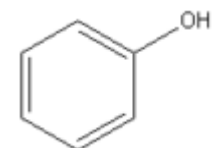
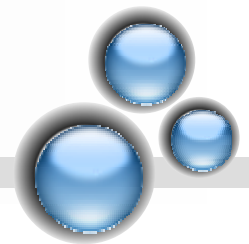
2007年5月

旭有機材工業株式会社

<http://www.asahi-yukizai.co.jp/>



# 2006年度の業績



# ① 2006年度のポイント

- 2006年度は4期連続の増収増益
- 連結最高益も2期連続で更新
- 中期経営計画の計数目標もほぼすべての項目を達成
- アメリカの子会社も3期連続の増収増益
- ただし樹脂事業は原料高騰により減収減益
- 中国市場への足掛りとして販社・樹脂製造会社を設立
- 管材事業で新素材PPLEXパイプを上市

## ② 2006年度 損益実績

< 連結 >

(百万円)

	2005 実績	対前年	2006 実績	対前年		2006予想
<b>売上高</b>	38,637	4.6%	41,557	2,920	7.6%	40,800
<b>管材・システム</b>	27,044	1.8%	30,059	3,015	11.1%	29,300
<b>樹脂</b>	11,594	12.0%	11,498	-96	-0.8%	11,500
<b>営業利益</b>	2,567	35.7%	3,583	1,016	39.6%	3,800
<b>管材・システム</b>	2,071	20.8%	3,209	1,138	54.9%	3,300
<b>樹脂</b>	496	181.8%	373	-123	-24.8%	500
<b>経常利益</b>	3,023	39.5%	4,314	1,291	42.7%	4,300
<b>当期利益</b>	1,718	28.7%	2,620	902	52.5%	2,400

# ③ 連結子会社の業績

OH

AOC  
ASAHI ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

05年度実績

(単位:百万円)

科目	単独	連結子会社							子会社計	連結修正	合計
	AOC	A/A	AYH	AYH・WJ	中部旭	北方	テクノ	アゼンパル			
売上高	32,600	3,387	2,447	4,136	832	186	466	274	11,728	-5,691	38,637
営業利益	2,150	270	91	130	35	-1	-66	7	466	-49	2,567
経常利益	2,593	269	78	127	35	0	-70	7	446	-16	3,023
当期利益	1,499	205	47	68	23	0	-72	4	275	-56	1,718

連単倍率 1.15

06年度年間実績

科目	単独	連結子会社							子会社計	連結修正	合計
	AOC	A/A	AYH	AYH・WJ	中部旭	北方	テクノ	アゼンパル			
売上高	34,228	4,065	2,850	4,766	1,118	187	819	315	14,120	-6,791	41,557
営業利益	3,034	310	155	186	37	-1	-36	2	652	-104	3,583
経常利益	3,717	311	138	184	37	-1	-38	2	633	-35	4,314
当期利益	2,207	145	91	102	19	0	-38	-1	318	95	2,620

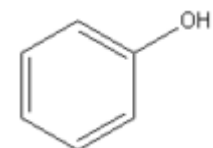
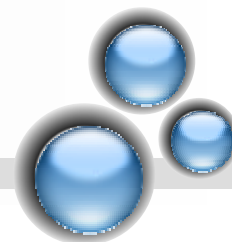
連単倍率 1.19

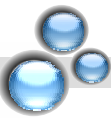
損益差異

科目	単独	連結子会社							子会社計	連結修正	合計
	AOC	A/A	AYH	AYH・WJ	中部旭	北方	テクノ	アゼンパル			
売上高	1,628	678	403	630	286	1	353	41	2,392	-1,100	2,920
営業利益	884	40	64	56	2	-0	30	-5	186	-55	1,016
経常利益	1,124	42	60	57	2	-1	32	-5	187	-19	1,291
当期利益	708	-60	44	34	-4	0	34	-5	43	151	902

# 2007年度中期経営計画

2007年度→2009年度





# 2004年度中期経営計画の総括

## ✚ 計数目標の達成状況

最終年度の実績と業績推移

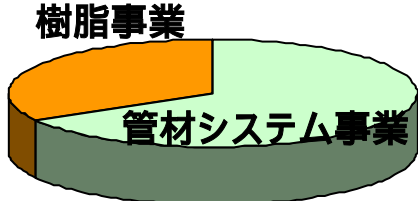

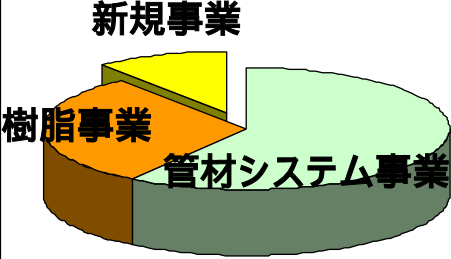
## ✚ 基本命題の進捗状況

全社課題と事業部課題の達成状況

## ✚ 解決すべき問題の状況

課題の同業他社比較と市場の評価

# 2004年度中計 計数目標

	2003 - 2005 年度			2006 年度目標		10年後のイメージ
売上高						
	324	369	385 億円	416	> 370 億円	520 億円
海外比率	10	12	13%	16	16%	50%
税後利益	3	13	15 億円	26	> 22 億円	33 億円
販管費率	27	25.9	25.2%	24.3	> 20%	15%
ROA	0.5	2.4	3.0%	4.3	> 4%	5%

# 基本命題の進捗状況



## 成長性の回復

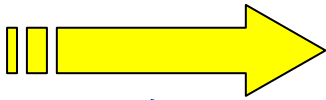


	予想	実績
東アジアGDP成長率	3.0	5.0%
連結平均増収率	年5.0%	8.7%
管材増収率	年4.4%	9.3%
樹脂増収率	年7.0%	7.0%

負の遺産の整理完了  
成長源泉は東アジア  
得意領域の深耕  
強い製品づくり  
積極的新製品展開

攻めの経営への転換  
中国電解・車、韓台IT  
マーケティング強化  
品質向上の徹底  
PPLEX、Dymatrix事業化

## 収益性の向上

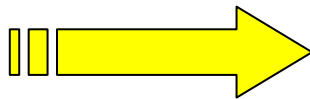


	2003年	2006年
管材営業利益率	1.1%	10.6%
樹脂営業利益率	2.3%	3.1%

最適生産体制の構築  
生産プロセスの革新  
地道なコスト削減  
製品構成の見直し

海外OEM生産  
外注業者加工場集約  
原料工程集約等  
トヨタ生産方式精神  
高付加価値品シフト

## 経営効率の向上

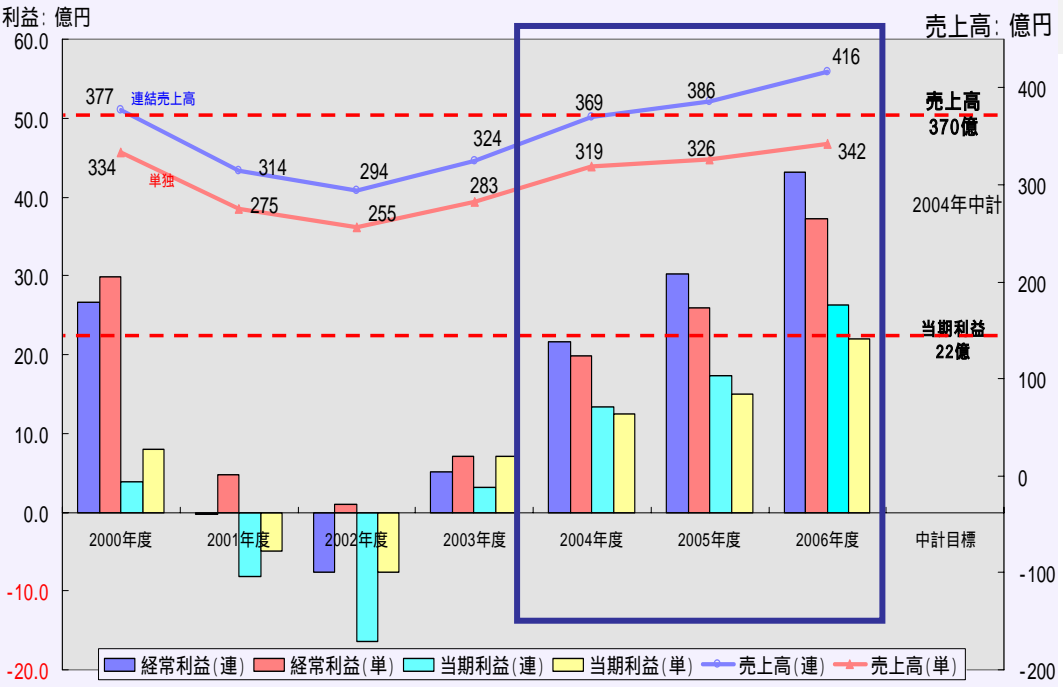
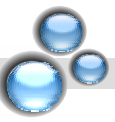


	2003年	2006年
1人当り売上高	37百万円	45百万円
ROA	0.5%	4.3%

見える経営  
販管費の削減  
物流効率化  
経営管理制度改定  
開発体制の見直し

ERP導入(SAP-R3)  
営業所統合・代理店強化  
出荷港変更・倉庫集約化  
社内金利制度導入  
旭化成との開発コラボ

# 計数量目標の達成状況①



## 2013年のイメージ

**新規事業**

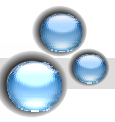
樹脂事業

管材システム事業

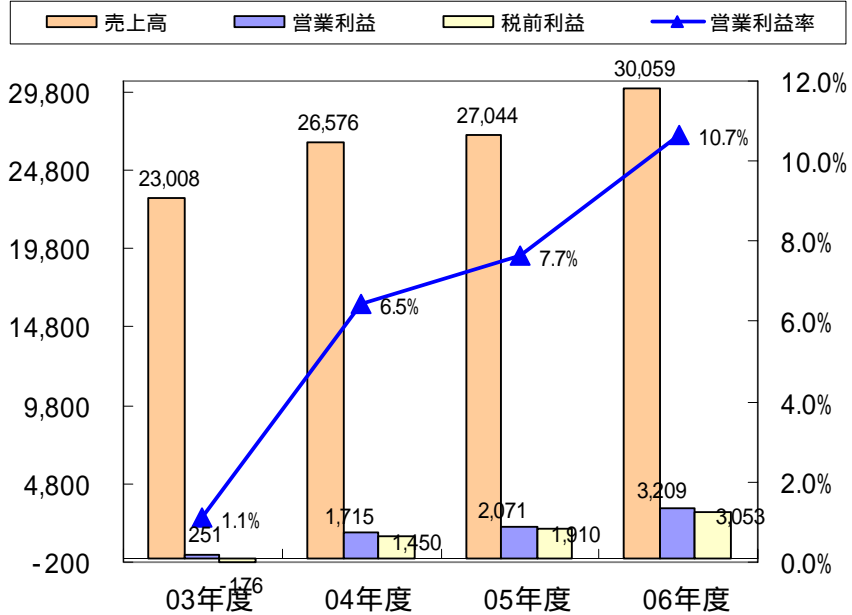
売上高	520億円
海外比率	50%
税後利益	33億円
販管費率	15%
ROA	5%

	実績				中計目標
	2003	2004	2005	2006	
売上高(億円)	324	369	386	416	370
海外比率(%)	10.0	12.0	13.0	16	16
税後利益(億円)	3	14	17	26	22
販管費率(%)	27.0	25.9	25.2	24.3	20
ROA(%)	0.5	2.4	3.0	4.3	4.0

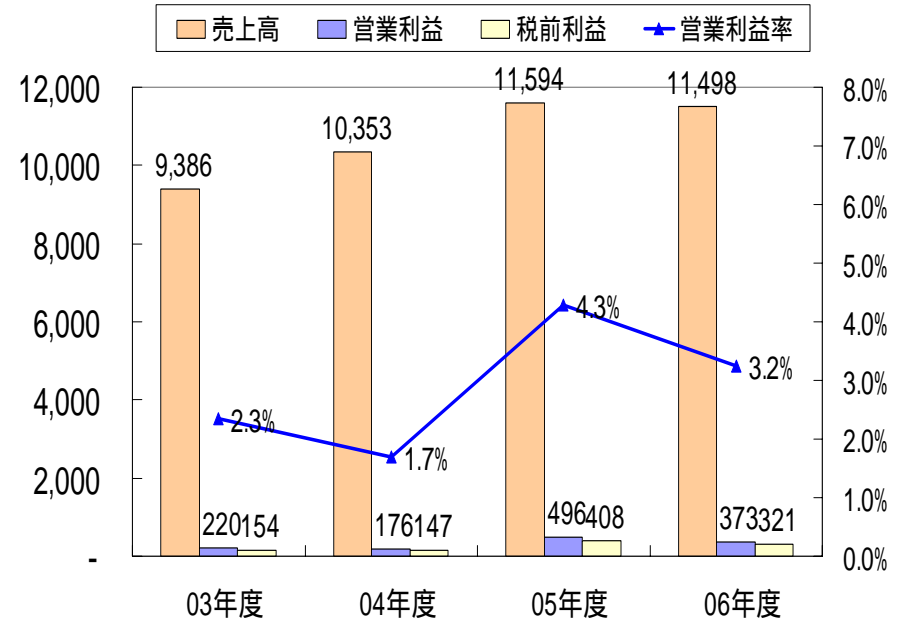
# 計数量目標の達成状況②



管材システム事業部 (連結ベース)



樹脂事業部



## 【管材システム】

国内民間設備投資の回復等の追い風  
トヨタ生産方式・カラクリ・加工モール等  
の生産革新  
関係会社の育成・強化  
海外拠点の拡充・売掛サイト短縮は未達

## 【樹脂】

活発な北米・中国市場と円安により堅  
調な国内自動車生産  
主要原料の大幅な騰貴  
老朽設備による非効率の顕在化  
中国リスクによる中国工場建設遅延

# 海外展開の進捗状況



南京KEMFLO社



赤字は駐在員事務所所在地

Frankfurt

上海販社

Nanjing

Shanghai

Boston

Bangkok

Taiwan

Singapore

バンコクPINE PACIFIC社



ジョージア水族館



百万円

バハマ アクアパーク

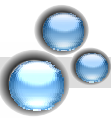
米州: アジアアメリカでのバルブ、アクチュエーターの販売が好調。

中国: 2002年に上海駐在員事務所を開設。2005年には上海に販売現地法人を設立。またフランジのOEM委託生産。鉄嶺で特殊ゴムパッキングの調達も始めた。2008年に樹脂工場稼働に向けて各種申請手続を進めている。

アジア: R C Sの技術を供与したタイPINE PACIFIC社R C S工場が順調に稼働中。インドでは電解工業向けバルブ拡販を検討中。

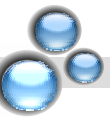
欧州: 東欧も視野に入れ、販売力強化の施策を検討する。

# 2007年度 中期経営計画の基本方針



- 策定の原点  
(当社の存在意義と前回中計の反省)
- 市場環境予測
- 0-3ビジョン「2020年に到達すべき姿」
  - 質的中期目標
  - 計数的中期目標
  - 新中期経営計画のコンセプト
  - 競争基盤の再構築
  - 研究開発方針・・・独自性の徹底追求
  - 事業部方針

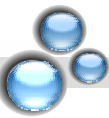
# 策定の原点 ①



## 当社の社会的使命(存在意義)の再確認

- 樹脂バルブを初めて商品化した者として  
「新たな価値を開発し続ける使命」
- 鋳造用樹脂のトップメーカーとして  
「ユーザーの海外展開・新規開発を支える使命」
- これらの価値観に賛同し投資する  
「株主の期待に応える使命」
- これらの価値観に共鳴し共に働く  
「従業員の夢をかなえる使命」
- これらの活動の基盤である  
「地域と環境を守る使命」

# 策定の原点 ②



## 前回中計の反省と環境変化への対応

- 戦略の不足



海外売上増大のための経営資源配分  
資産効率化、販管費削減のための施策

- マネジメントの不足



従業員のベクトルの不揃い

- 競争環境の軽視



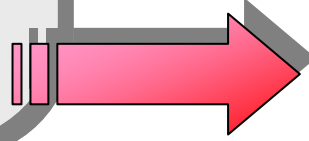
シェアの低下、淘汰の停滞

- 買収脅威の拡大



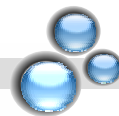
外資による三角合併の解禁

- なお低い株価水準



さらなる効率化の推進

# 市場環境予測①



## 人口問題

生活の高度化とエネルギー消費の増加

<日本国内> 人口減少  
少子高齢化と労働力人口の減少

人口増加と食料需要の増大

## エネルギー・資源問題

・石油資源の将来的枯渇  
CO2などのGHG排出増加

## 地球温暖化

・異常気象  
・砂漠化  
・水資源問題  
・水位上昇 etc.

## 食料問題

耕作地の減少・旱魃・洪水(表土流失)  
食糧生産制約  
森林資源減少・過放牧 etc.

## 京都議定書

<日本の目標>

2008～2012年間にGHG 6%削減

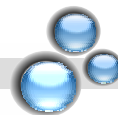
IT・ICT

ロボットの発展

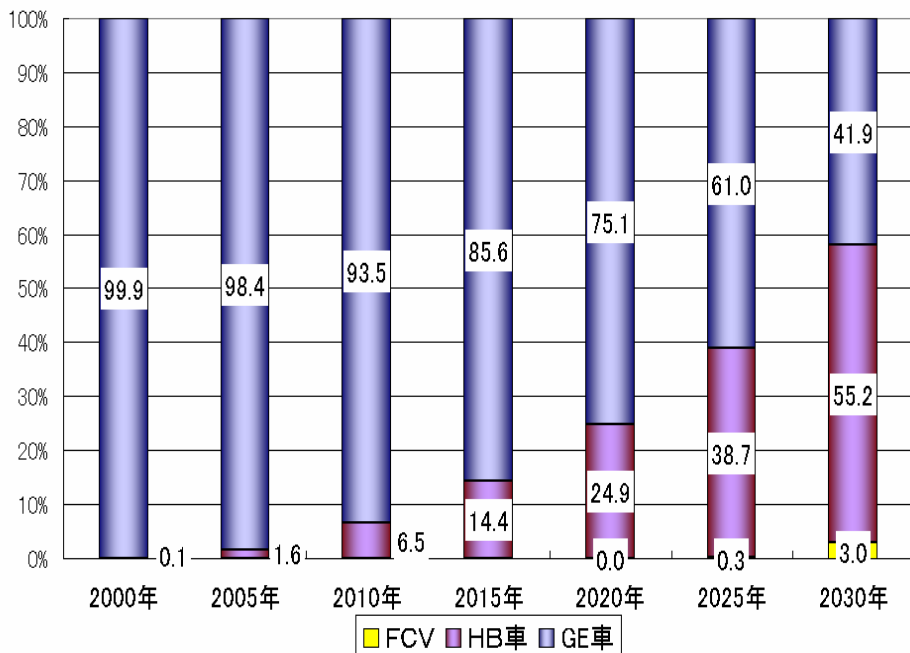
## 産業構造の変革の要請

省資源・省エネ, 廃棄物削減・リサイクル, 省力化・高付加価値化

# 市場環境予測②



乗用車タイプのシェア推移予想



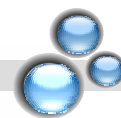
●世界経済実質GDP中期予測

\*日本：年度 それ以外：暦年

	2006	2007	2008	2009	2010	2020
世界	5.1%	4.9%	3.2%	3.3%	3.2%	2.4%
日本	2.3%	1.9%	2.2%	0.3%	1.8%	1.5%
国内民間設備投資	9.6%	4.0%	3.2%	-1.0%	1.2%	2.2%
米国	3.4%	2.6%	3.2%	3.3%	2.9%	2.6%
固定資本投資	4.0%	2.3%	4.8%	4.7%	4.5%	3.5%
EU圏	2.5%	1.9%	2.0%	2.1%	2.0%	2.4%
固定資本形成	4.6%	2.6%	2.4%	2.5%	2.4%	2.1%
アジア	8.7%	8.6%	6.4%	5.9%	5.9%	7.2%
固定資本投資(中国)	22.5%	18.5%	10.3%	10.3%	10.3%	7.8%
固定資本投資(インド)	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	7.0%
固定資本投資(韓国)	3.2%	3.2%	3.2%	3.2%	3.2%	2.5%

ハイブリッド車(HB)や水素を燃料とするFCV車などの次世代自動車の台頭してくるのは、2020年以降の見通し

世界全体では、減速傾向にあるが、中国、インドといったアジア地域において活発に推移し世界を牽引する



成長の機会をグローバルに求める  
高付加価値差別化製品へシフトする  
自律を旨としたコンプライアンス体制を確立する

2020年までに到達すべき姿

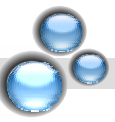
Globalization と Innovation で A O C の名に恥じない  
品格と規模とをもった国際的高収益企業となる

連結売上高 1,000億円

海外売上比率 50%

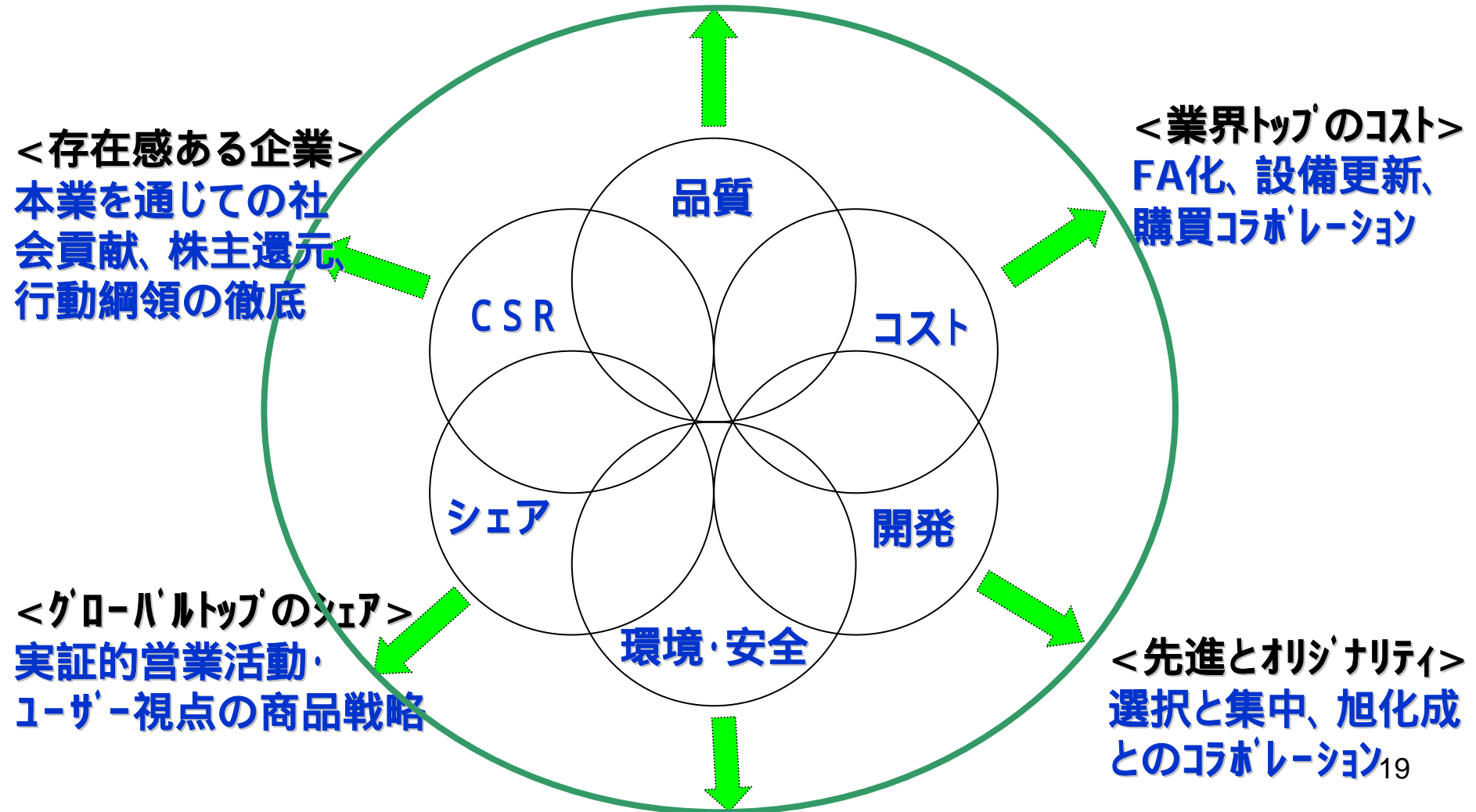
ROA 8%

純利益 80億円

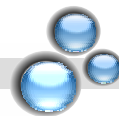


# 質的中期目標

真のトップ企業にふさわしい企業品格を備える



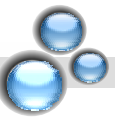
# 計数的中期目標



2006年度 → 2009年度 → 2020年目標

	2006年度	2009年度	2020年目標
売上高	416億円	495億円	1000億円
管材	301億円	350億円	
樹脂	115億円	145億円	
海外比率	16.0%	18.0%	
税後利益	26億円	30億円	80億円
販管費率	24.3%	22.5%	20%未滿
ROA	4.3%	5.0%	8.0%

# 新中計コンセプト



A O C

・ Advantage

競争優位の強化

(競争基盤の再構築)

・ Originality

独自化・差別化の徹底推進

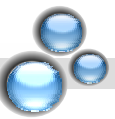
(存在意義の再認識)

・ Collaboration

見えない資産の有機的結合

(新たな顧客価値の創造)

# 競争基盤の再構築



## ➤ 設備投資

### 管材システム

延岡製造所のマザー工場

としての体制・機能強化

1. 生産技術基盤の整備
2. Dymatrix事業化推進
3. 新素材・新規製品への対応

	07年度	08年度	09年度	合計
戦略	9.8億円	6.5億円	6.2億円	22.5億円
定常	3.4億円	3.8億円	2.7億円	9.9億円
合計	13.2億円	10.3億円	8.9億円	32.4億円

### 樹脂

「日中2極間連携」と

「最強コスト」の実現

1. 中国工場建設
2. 愛知工場の設備更新
3. 新規開発製品への対応

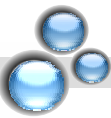
	07年度	08年度	09年度	合計
戦略	13.2億円	1.0億円	20.0億円	34.2億円
定常	2.7億円	4.2億円	2.8億円	9.7億円
合計	15.7億円	5.2億円	22.8億円	43.9億円

## ➤ 人事配置

グローバル化を加速するため、積極的に海外に人材を傾斜投入する。  
人材のグローバル化を進める。海外拠点については、現地採用の人材を積極的に活用する。

販売体制を抜本的に改革する。  
女性社員の積極的登用を進める。

# 独自性の徹底追求（研究開発）



## ■ 基本的考え方

- 得意領域\*への研究資源重点化と技術No.1化を加速推進  
コア技術を基盤としたプロダクト&プロセスイノベーションの推進

## ■ 重点テーマ領域と方針

### ● 管材・システム領域：

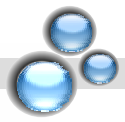
- ・流体制御用精密バルブ・ユニット(Dymatrix)の拡充

### ● 水処理・環境システム領域：

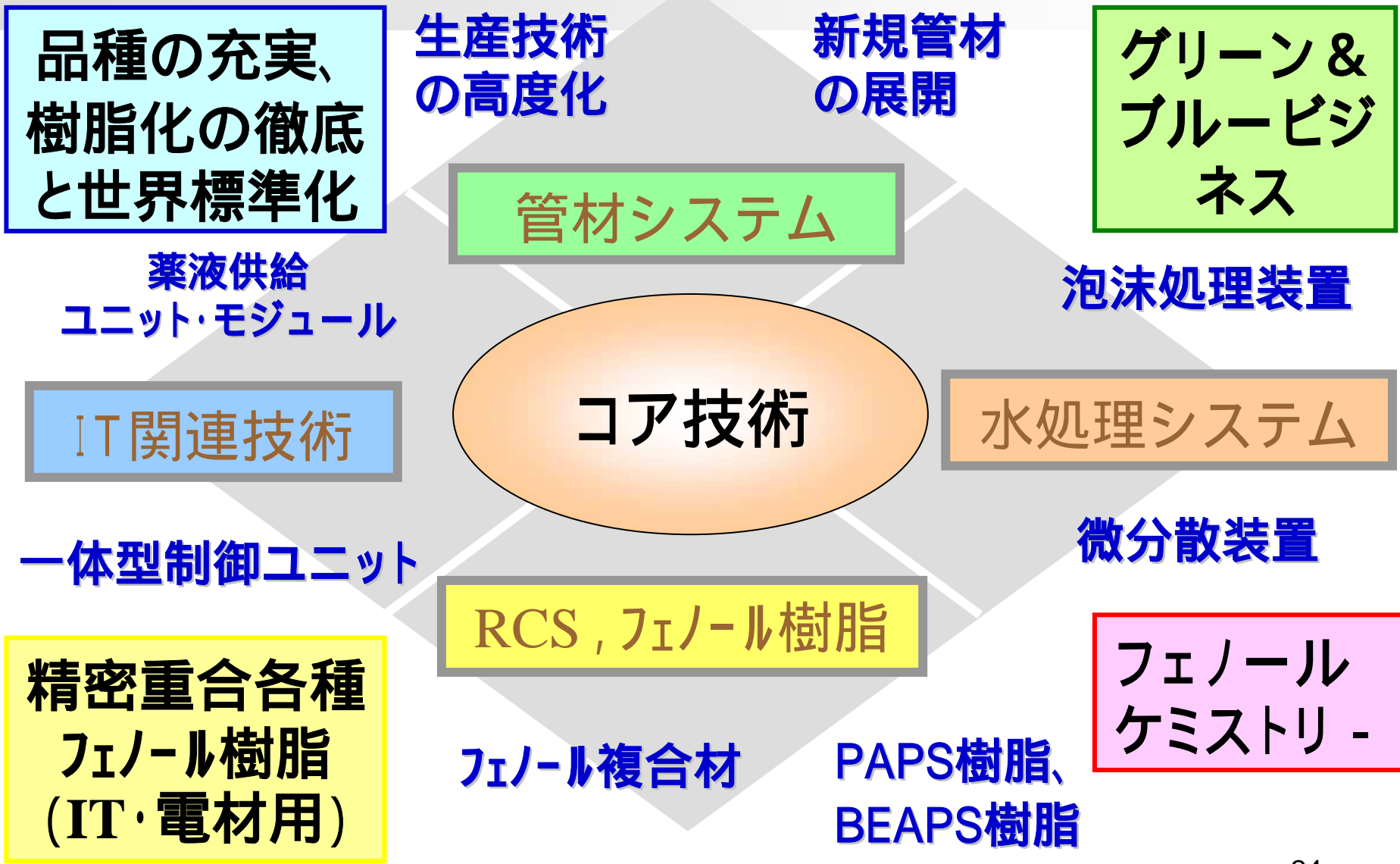
- ・新規水処理装置・システムの開発による環境関連事業の拡充

### ● フェノール樹脂領域：

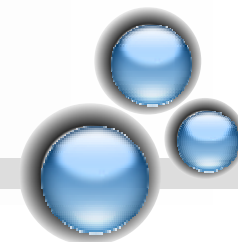
- ・新規フェノール系機能樹脂の開発と高付加価値市場への展開



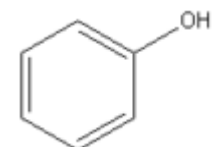
# 見えない資産の有機的結合(イメージ)



# 管材システム事業



2007年度中計のキーポイント  
計数目標



# 07年中期事業計画のキーポイント「Point 7」

## 事業構造の抜本的改革 ~ 幸福をもたらす7つの神様 ~



### 強化

#### 1. 製造プロセスの革新

世界のマザー工場へ、FA化推進 等

#### 2. 新製品群の強化

Dymatrixシリーズ、PPLEX配管材料 他

#### 3. 積極投資の展開

償却費 10億円 / 年 規模

### 開拓

#### 4. 未開拓マーケットへの進出

弱い分野への逆襲及び、金属市場開拓

#### 5. 第二AOCブランドの確立

海外市場に適した仕様の投入

### 改善

#### 6. 経営資源の集中

高収益事業(バルブ)への注力

#### 7. 営業体制の再構築

顧客に近い提案型営業

# 計数目標

## <09年度目標>

	【単独】	【連結】
売上高	270億円	350億円
営業利益	35億円	43億円

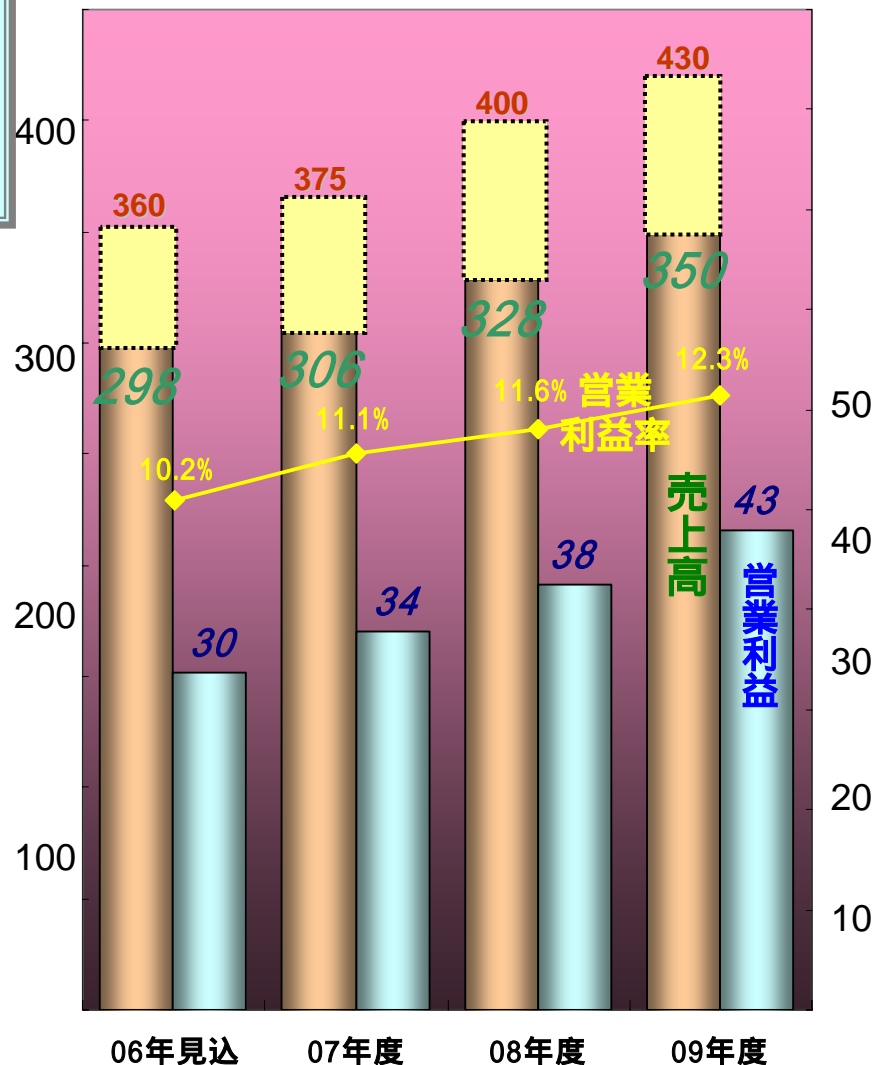
億円

【売上高】	06年度	→	09年度	06年対比
単独	226	+ 44	270	119%
関係会社	134	+ 26	160	119%
連結	単純計	+ 70	430	119%
	修正後	+ 52	350	117%

億円

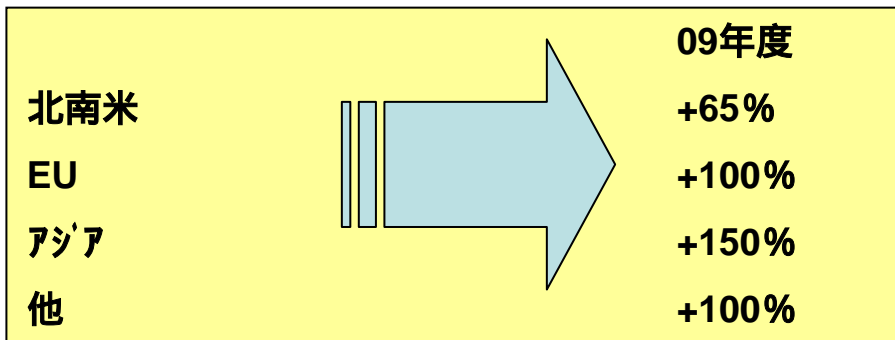
【営業利益】	06年度	→	09年度	06年対比
単独	24	+ 11	35	146%
関係会社	6	+ 2	8	133%
連結	単純計	+ 12	43	139%
	修正後	+ 13	43	143%

【売上及び利益推移】 (億円)

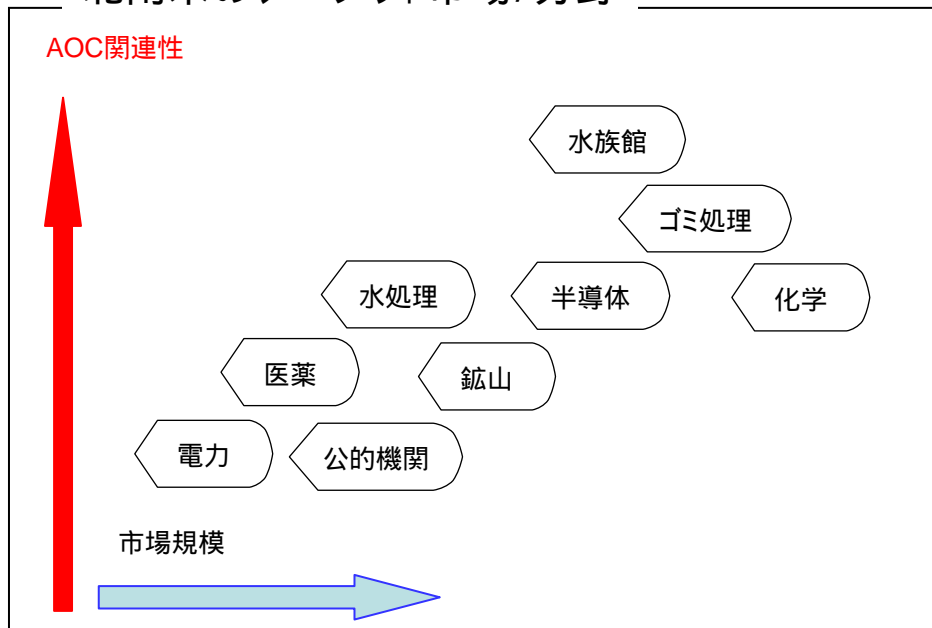


# 計数目標

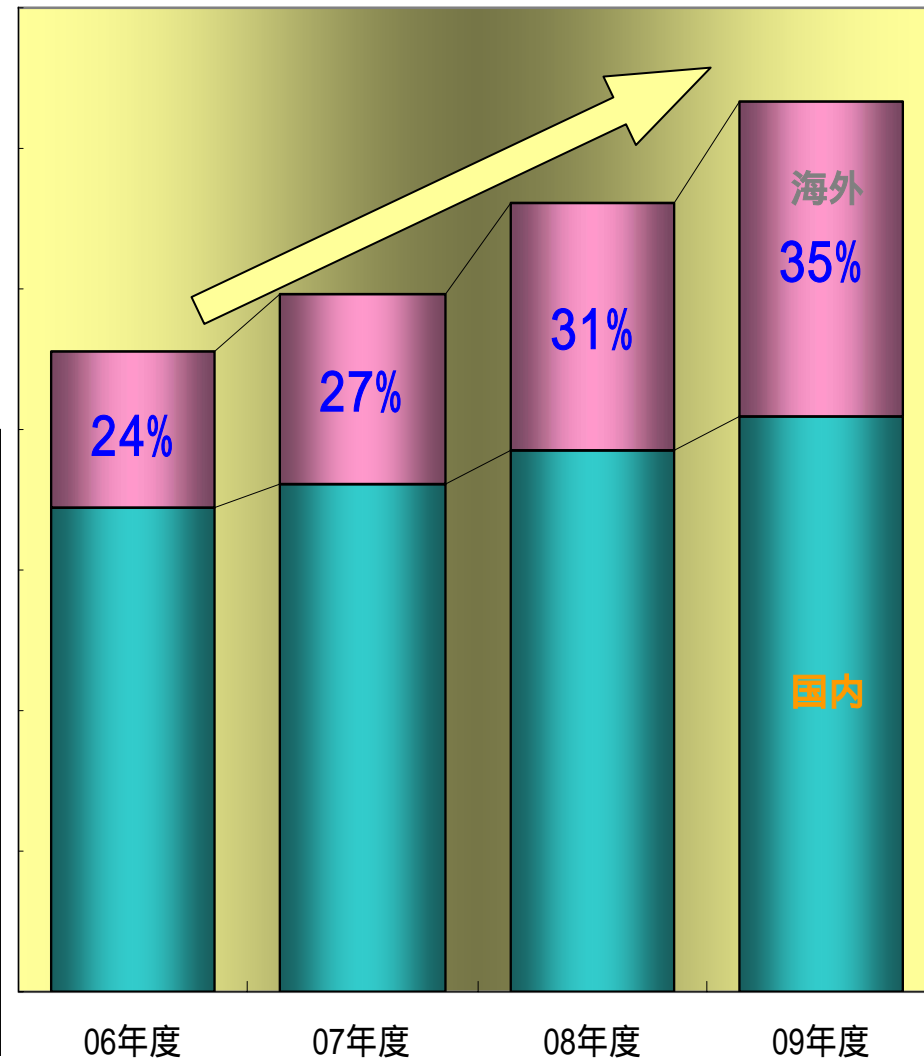
【海外地域別内訳(バルブ)】



北南米のターゲット市場/分野



【バルブ売上推移と内外構成】

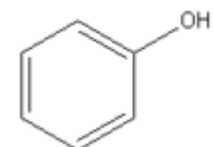
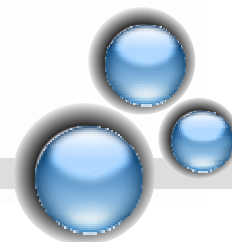


# 樹脂事業

基本施策

計数目標

中国市場での施策



# 基本施策

技術力・製造力・販売力強化によって  
グローバルニッチNo. 1になる！

## 素形材分野

### 国内 1基盤の強化

製品差別化の推進  
(低ヤニ, 低膨張, 低温硬化プロセス(開発中), フルーティRCS, プレヒート装置)

ソリューション展開  
評価技術、設計技術  
生産基盤の整備  
愛知燃料転換、愛知RCS整備

### グローバルへの着実な展開

中国  
南通工場による中国市場開拓  
タイ  
タイ企業への技術供与促進によるRR収入増大と樹脂販売の拡大。

## 電子材料分野

### 新市場開拓と内製化推進

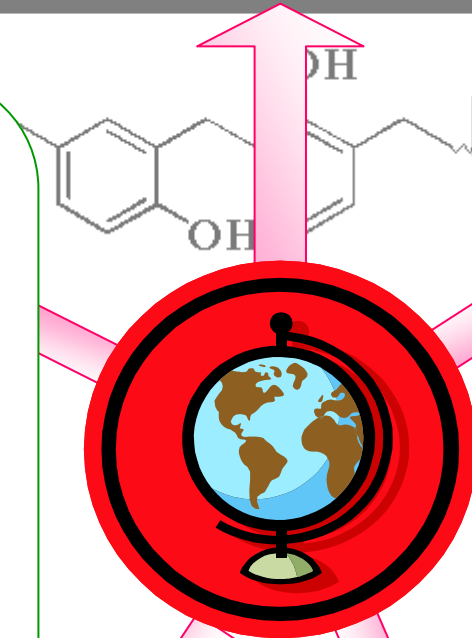
増強した生産基盤を生かし、下地材や厚膜レジスト用途の新市場開拓。  
TEP - DF等の差別化製品の浸透  
高収益製品の内製化推進

## 発泡材料分野

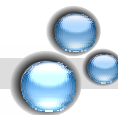
### ノンフロン現場発泡等の差別化製品の浸透

## 成形材料分野

### 車載部品の樹脂化市場における自動車メーカーとの共同開発



# 計数目標



2009年度海外売上高比率 11%

【連結】

単位: 億円

	07年度	08年度	09年度
売上高	123	134	145
営業利益	4	5	8

【単独】

単位: 億円

	07年度	08年度	09年度
売上高	123	128	134
営業利益	5	5	6

【海外売上高 連結】

単位: 億円

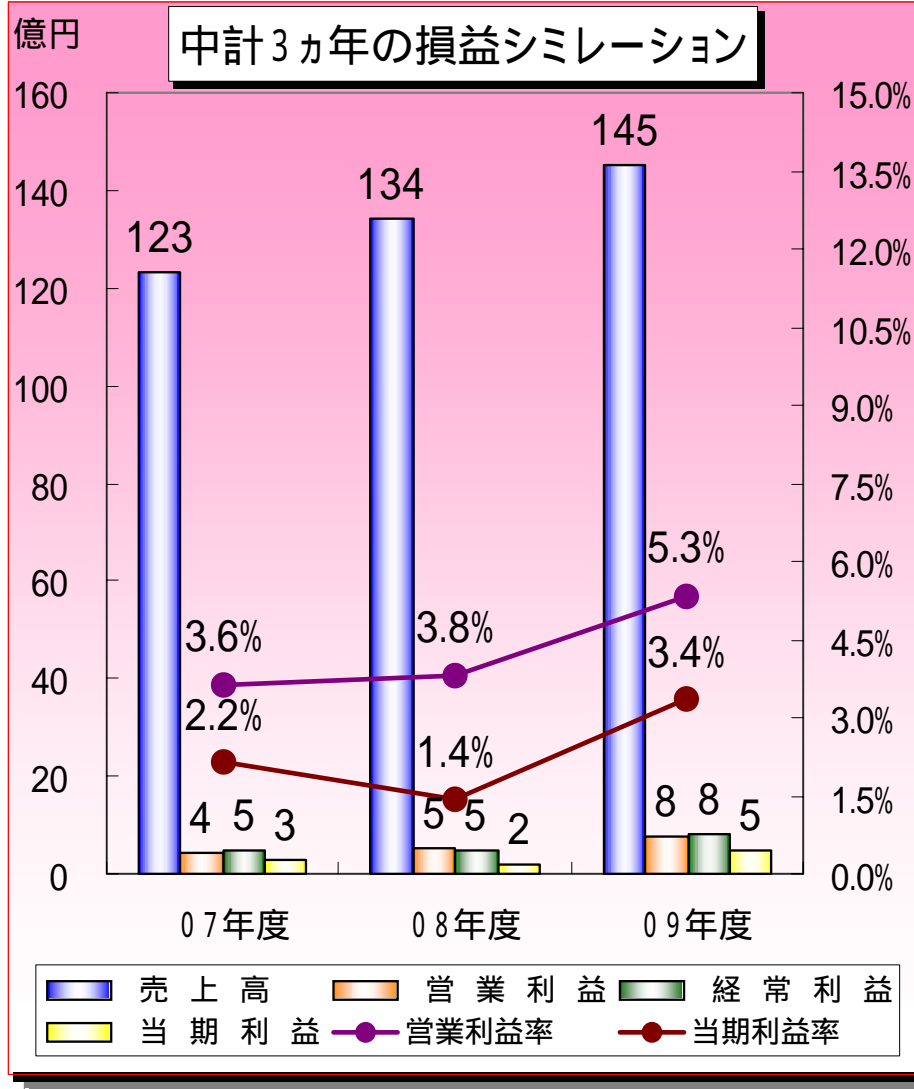
	07年度	08年度	09年度
事業部全体	7	13	16
海外比率	5.5%	8.9%	11.0%

販管比率

16 %

ROA

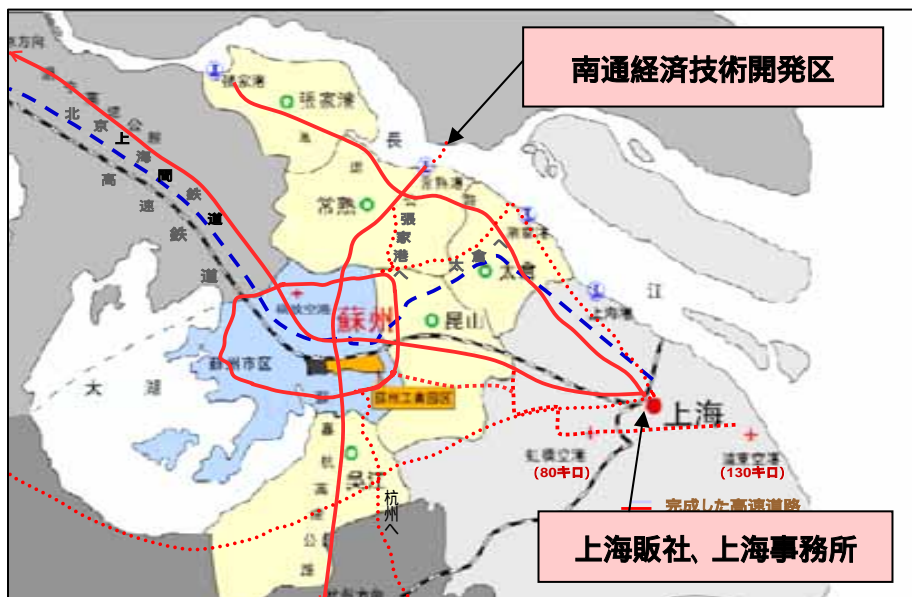
4.0 %



# 中国市場での施策 (自動車産業向け鋳造用レジン生産)

## 江蘇省南通市でのレジン工場建設

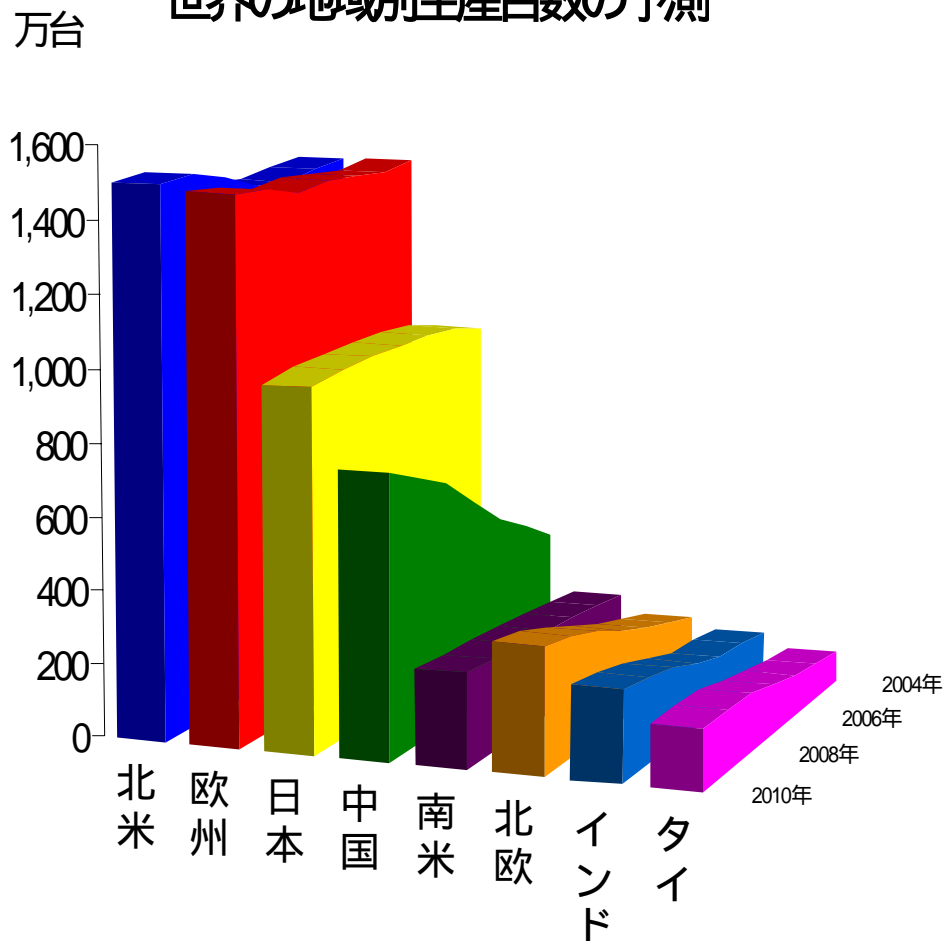
## 成長著しい中国自動車生産



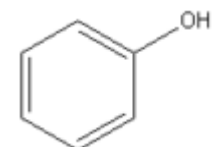
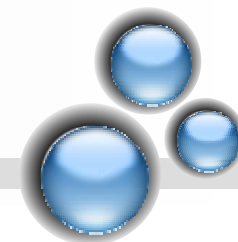
### 当社のレジン生産対応(能力)

着工	2007年6月
稼働	2008年7月
敷地面積	19,600 m <sup>2</sup>
投資金額	10億円
設備能力	5500t

### 世界の地域別生産台数の予測



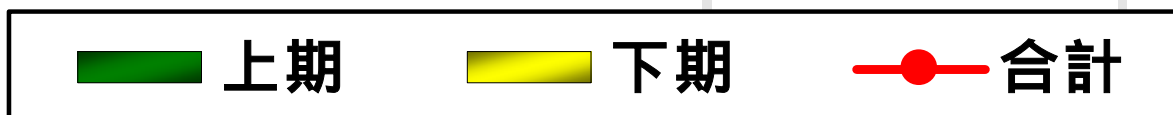
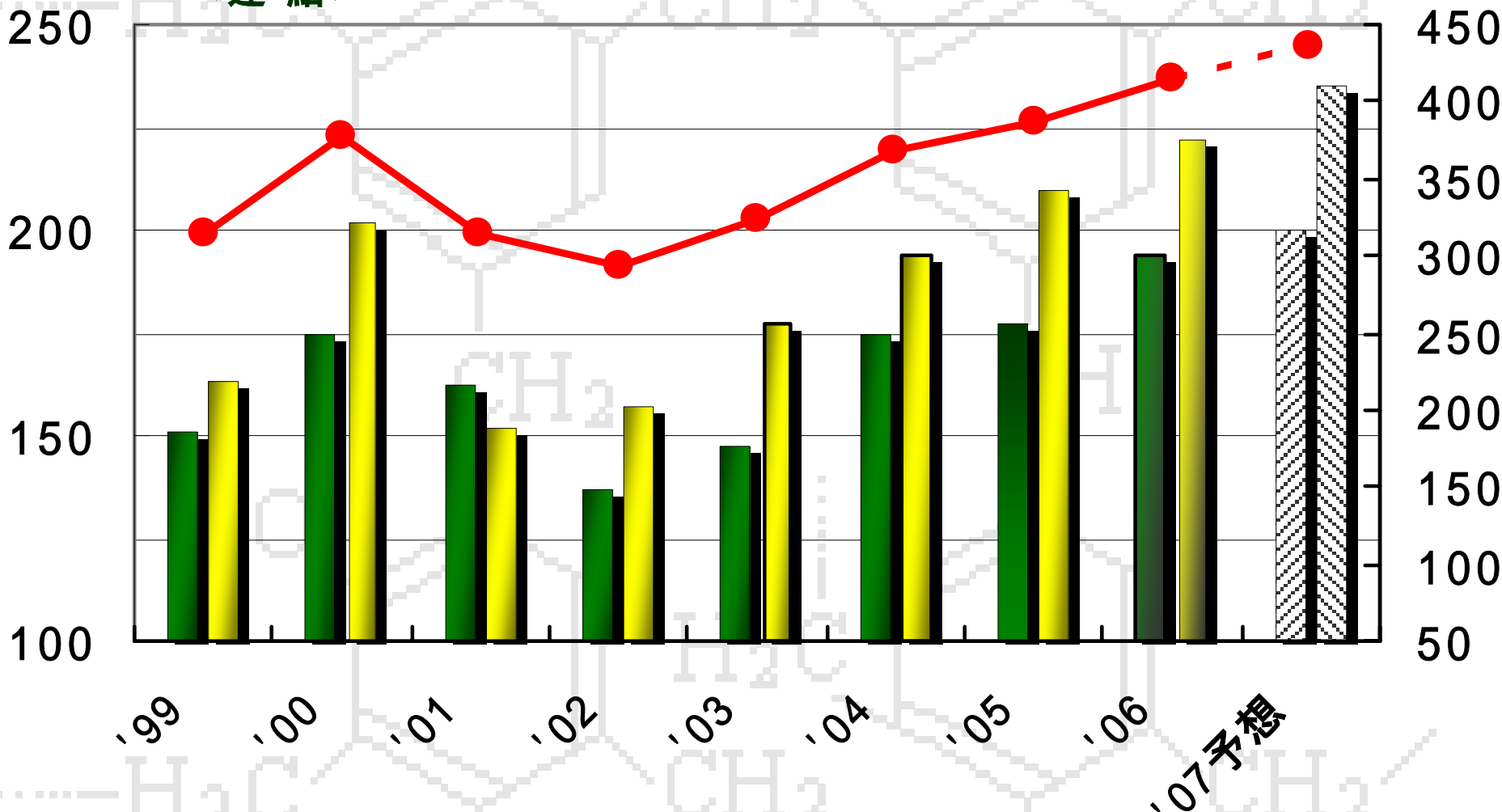
# 中期経営計画初年度の予算



# ①-1 売上高の上下推移

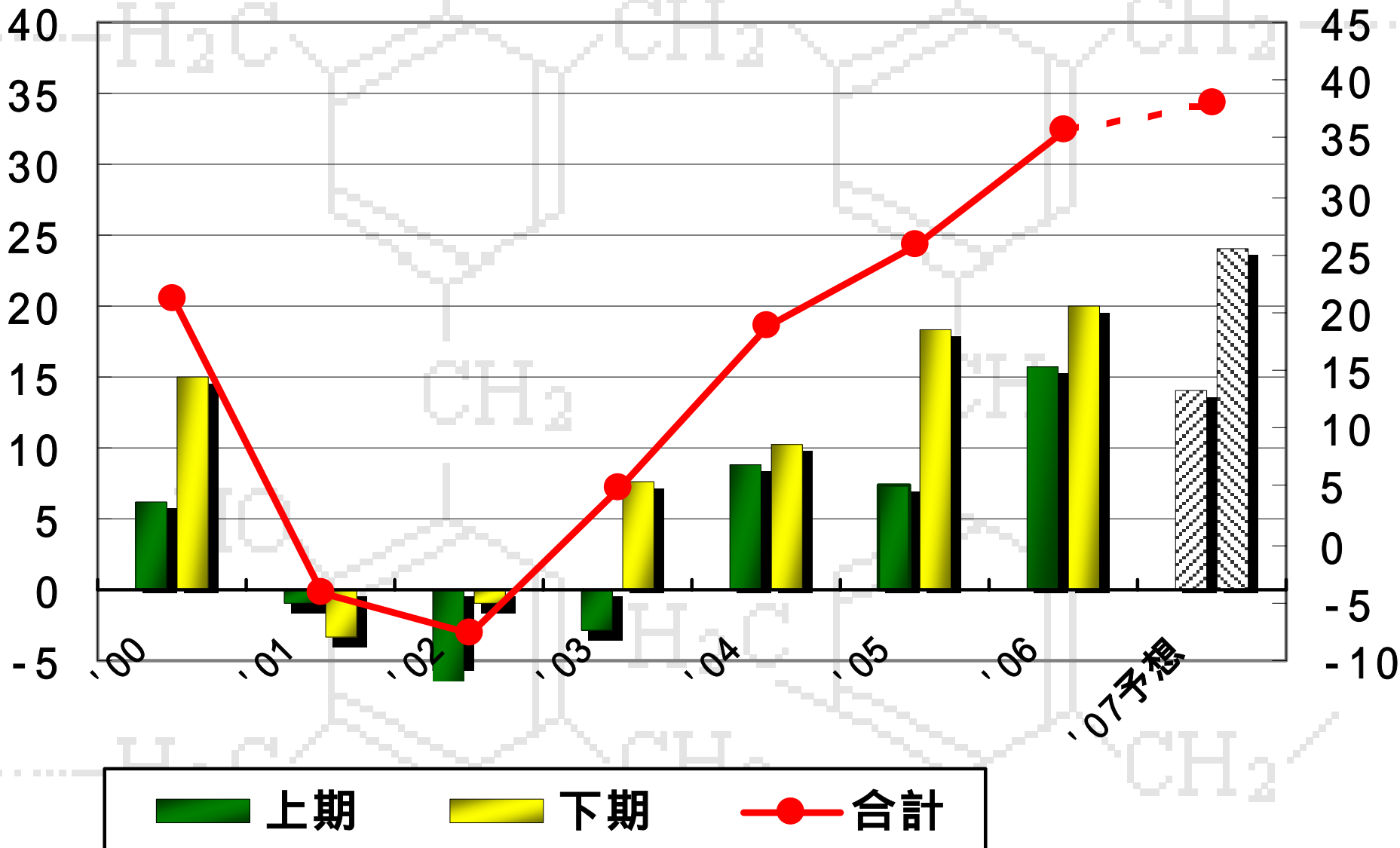
<連結>

単位：億円



# ①-2 営業利益(連結)の上下推移

単位：億円



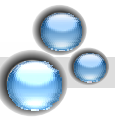
# 2007年度 損益見通し

< 連結 >

カッコ内の数値は 税制改正による減価償却費の影響がなかった場合の額

(百万円)

	2006 実績	対前年	2007 予想		対前年	2007上予想
売上高	41,557	7.6%	43,500	1,943	4.7%	20,000
管材・システム	30,059	11.1%	30,800	751	2.5%	14,000
樹脂	11,498	-0.8%	12,700	1,192	10.4%	6,000
営業利益	3,583	39.6%	3,800 (4,050)	217 (467)	6.1% (13.0%)	1,400 (1,505)
管材・システム	3,209	54.9%	3,300 (3,490)	91 (281)	2.8% (8.7%)	1,300 (1,375)
樹脂	373	-24.8%	500 (560)	127 (187)	34.0% (50.1%)	100 (130)
経常利益	4,314	42.7%	4,500 (4,750)	186 (436)	4.3% (10.1%)	1,800 (1,905)
当期利益	2,620	52.5%	2,700 (2,950)	80 (330)	3.1% (12.6%)	1,000 (1,105)

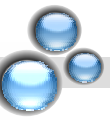


挑む・創る・変える

**AOC**

ASAHI ORGANIC CHEMICALS INDUSTRY CO.,LTD.

***GLOBAL & INNOVATIVE !***



## **注意事項**

本資料における予想・見通しは、資料作成時点において入手可能な情報により弊社が判断したものです。将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。